



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続におけて -

令和7年11月20日

我孫子市小中一貫教育だより
第389号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「未来に残してつなぐ布佐カリキュラム」～布佐小・2年生「わたしたちの町はっけん」

布佐小学校の2年生が生活科「わたしたちの町はっけん」の授業で Abi-ふるさとの授業を実施しました。事前にグループごとに好きな事業所を2か所決めて布佐の町探検をしました。

本時は、町はっけんの事後学習です。「みんなに町たんけんでおしえてもらったことをしょうかいしよう」と題して、グループごとに自分たちが「見てきたこと」「聞いてきたこと」「わかったこと」を発表しました。発表は、自分たちの言葉で発表できるよう極力原稿を見ないで行われました。発表で使われた掲示物には、自分たちで描いた地域のスーパーマーケットやパン屋さん、交番など事業所の様子が絵で描かれており、グループごとに工夫が凝らされていました。また、事業所の人たちの人形を作ったグループもありました。どのグループからも「自分たちが町たんけんで見つけてきたことを教えてあげたい!」という主体性が前面に溢れていました。



布佐の町を探検し、町探検で学んだことを紹介・共有することで、さらに布佐の町に愛着を持ち、もっと布佐の事を知りたいという思いが深まり、3年生で行う「布佐の宝を見つけよう」につながる学習でした。

「命でつなぐ我孫子カリキュラム」～二小・6年生「地域の防災」

第二小学校6年生家庭科の時間でオリジナルカリキュラムに位置付けた授業を展開しました。我孫子中学校区はカリキュラムのテーマを「命でつなぐ我孫子カリキュラム」とし、安全・防災で9年間をつなぐとしていることから、本単元の中でも扱われている防災に焦点をあて、子ども達に地域での生活や役割を考えさせる授業でした。

始めに担任が単元名を板書し、「地域での生活」から本時は防災について学習することを告げ、災害の種類や過去に我孫子であった災害について児童に問いました。児童たちは反応よく挙手して元気に回答し、和やかな雰囲気です。

続いて、子ども達の回答を受けた担任が「防災のことでどのように地域の人と関わることができるだろうか?」という本時の学習課題を板書し、まずはどんな場所で地域と関わられるかを問います。ここでも児童たちは学校や公共施設などを元気よく回答し、それを受けた担任は改めて「地域と関わってどんなことができるか」と問いました。

そして、この発問には、子ども達が考えやすいように、また、友だちと意見を共有できるように大画面と個々のタブレットを繋ぎ、一人ひとりが市のホームページから防災に関する我孫子の取り組みを見ることができるよう、また、オクリンクプラスというアプリを使用して自分の考えを書き込みながら友達も考えていることも見られるように工夫しています。



子ども達は市の取り組みを参考にし、まずは自分で考えたことを一生懸命に書き込み、途中からグループでお互いの意見を交換して学び合います。グループの代表者からの発表では「消防署の電話番号を覚えて何かあったときに地域の人に教える」「こもれびなど地域の人が集まる公共施設に防災のポスターを作って貼る」「地域の防災訓練に参加する」「災害時の炊き出しや荷物運びを手伝う」といった本時のねらいに沿った意見が出されました。最後に担任からは、本時の評価と週末に我孫子市総合防災訓練が行われることが紹介されて授業は終了しました。